

| 授業科目名 | 物理療法学 | | 授業形態 | 講義 | 配当学期 | 2年（前期） |
|--------------|---|--|------|-----|------|--------|
| 担当教員名 | 落合 慶之、平塚 将嗣、水谷 貴佐 | | 単位数 | 1単位 | 時間数 | 30時間 |
| 授業概要 学習目標 | <p>〔授業概要〕</p> <p>理学療法士の治療手段の1つである物理的エネルギーの人体に及ぼす生理学的影響を理解し、効果、適応、禁忌を学ぶ。</p> <p>〔学習目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物理療法の対象となる病態について説明できる。 ・各種障害に対して、各種の物理的エネルギーがどのように作用し、治療効果を発揮するかが説明できる。 ・各種物理療法機器の適応疾患と禁忌を挙げることが出来る。 | | | | | |
| 授業回数 | 授業内容 | | | | | |
| 第 1 回 | 物理療法総論（物理療法の歴史・分類） | | | | | 〔平塚〕 |
| 第 2 回 | PBL 物理療法の対象となる病態①炎症 予習：教科書「エビデンスから身につける物理療法」P24～37を読み込む | | | | | 〔落合〕 |
| 第 3 回 | PBL 物理療法の対象となる病態②痛み 予習：教科書「エビデンスから身につける物理療法」P24～37を読み込む | | | | | 〔落合〕 |
| 第 4 回 | 温熱療法の基礎、表在性温熱療法 | | | | | 〔平塚〕 |
| 第 5 回 | 深部性温熱療法 | | | | | 〔平塚〕 |
| 第 6 回 | 超音波療法 | | | | | 〔平塚〕 |
| 第 7 回 | 寒冷療法 | | | | | 〔平塚〕 |
| 第 8 回 | 電気刺激療法 演習：S-D曲線の測定 予習：教科書「エビデンスから身につける物理療法」P207を読み込む | | | | | 〔落合〕 |
| 第 9 回 | 電気刺激療法 総論：定義・分類・パラメータ設定・適応・禁忌 予習：教科書「エビデンスから身につける物理療法」P200～216を読み込む | | | | | 〔落合〕 |
| 第 10 回 | 電気刺激療法 演習：経皮的神経電気刺激（TENS） 予習：教科書「エビデンスから身につける物理療法」P217～224を読み込む | | | | | 〔落合〕 |
| 第 11 回 | 電気刺激療法 TENS総論：目的・機序・電極配置 予習：教科書「エビデンスから身につける物理療法」P217～224を読み込む | | | | | 〔落合〕 |
| 第 12 回 | 電気刺激療法 演習：神経筋電気刺激（NMES） 予習：教科書「エビデンスから身につける物理療法」P235～243を読み込む | | | | | 〔落合〕 |
| 第 13 回 | 電気刺激療法 NMES総論：目的・適応・機序 予習：教科書「エビデンスから身につける物理療法」P235～243を読み込む | | | | | 〔落合〕 |
| 第 14 回 | 牽引療法・CPM・マッサージ療法 | | | | | 〔平塚〕 |
| 第 15 回 | 水治療法 | | | | | 〔水谷〕 |
| 評価方法 | 小テスト（50%）、期末試験（50%）により評価する。 | | | | | |
| 教科書 参考図書 | <p>〔教科書〕 【電子書籍】エビデンスから身につける物理療法（羊土社）</p> <p>〔参考図書〕物理療法学（医学書院）</p> | | | | | |
| 履修上の 留意点 | 機器を用いた治療手段であり、リスクを伴うので、生理学的機序・適応・禁忌・手技を確実に覚えてください。 | | | | | |
| メッセージ | 物理的エネルギーを適切に活用することで、理学療法の効果を高めることができます。使えるようになりましょう。 | | | | | |